



# なごやしitamachishu 那古野下町衆、参上！！

## ～円頓寺・四間道界隈のまちづくりの芽～

山崎 崇

### ▲那古野下町衆ロゴ

超高層ビルの建設が相次ぎ、大きくまちが変わっている名駅周辺、そのすぐ北東には円頓寺商店街や四間道界隈と呼ばれる下町が今もなお残っている。店主だけでなく、様々な個性や専門性をもった人たちが、この円頓寺・四間道界隈が好きだからという理由で集まり始めた。まちが好きな自分のために、自分が好きなまちのために汗をかき、粋でいなせな集団「那古野下町衆」。多様な個性による緩やかな活動を進める彼らの誕生には、新しい都市をデザインする可能性を感じさせる。



▲円頓寺商店街・四間道界隈

### 円頓寺商店街・四間道界隈

名古屋駅周辺は「元氣な名古屋」を象徴しているかのようにつながり、超高層ビルが建設されている。昨年二〇〇七年には、名古屋ルーセントタワー、ミッドランドスクエアが開業し、モード学園スパイラルタワーズ（二〇〇八年竣工予定）や名古屋プライムセントラルプロジェクト（二〇〇九年竣工予定）の工事も進んでいる。

開発が進む名古屋駅の北東に位置し、下町情緒が今もなお残っているのが円頓寺商店街・四間道界隈である。円頓寺商店街は名古屋でも有数の歴史ある商店街のひとつではあるが、全国各地の商店街同様空き地・空き店舗の増加などに悩まされている。しかし、お客さんと店主がごく自然に挨拶や世間話をしている姿や、毎年夏に開催される円頓寺七夕まつりに楽しそうに訪れる多くの人々を見るたびに、円頓寺商店街の潜在能力の大きさを感ずる。

四間道は土蔵と商家が残る町並みで、一部は名古屋市の町並み保存地区に指定されている。歴史ある建物や町並みの雰囲気を活かしたカフェや雑貨屋などの店舗が徐々に増えている。最近では、町歩きを楽しむ人も増えてきており、雑誌等で取り上げられることも多くなっている。



▲会議風景。真剣かつ楽しく議論をしています。

### 那古野下町衆とは

月に一度、円頓寺商店街のある部屋に十数名の男女が続々と集まる。円頓寺商店街や四間道界隈で店を構える者、周辺で活躍するクリエイターや建築家、まちづくりを専門とする研究者などその顔ぶれは多様である。彼らの共通点は、「円頓寺商店街・四間道界隈が好き」であり、そして彼らが集まる理由でもある。二〇〇七年二月に初の会合を開き、自分たちでできることを探し始めた。そんな彼らが那古野下町衆（以下、略称の那古衆・なごしゅう）である。

- ・ 月一の会議ではまちの現状を報告し合ったり、空き店舗を減らすアイデアや那古衆として行ないたい活動を発表しあったりして意見交換を行なっている。その一部を紹介したい。
- ・ 店舗のリニューアル案を提案しよう。
- ・ 商店街の掟（自主的ルール）を提案しよう。
- ・ オリジナルのマップをつくろう。
- ・ 那古衆企画のイベントを開催しよう。
- ・ 大学や学生と積極的にコラボレーションしよう。
- ・ 那古衆自ら情報を発信しよう。

### 多様な個性による緩やかな活動

多様な個性や専門性にあふれるメンバー構成であるため、会議では様々な意見やアイデアが出されて非常に興味深い。その個性や専門性を上手く生かすことができれば、実現性も十分あるように感じる。

一方で、メンバーが多様であるので、成果を感じるまでの一定の期間活動が継続するの、立場の異なるメンバーの意見や那古衆全体の活動方針はまとまるの、かなどという心配をしていた。しかし、そのような不安は不要であった。那古衆は楽しみながら、自分たちでできることを探しながら、そして緩やかに行動に移している。

そんな那古衆の活動の一部を紹介したい。円頓寺七夕まつりでの号外の配布、携帯サイトやホームページの開設など、外部への情報発信を積極的に進めている。（<http://www.nagosyu.jpn.org/>）

最近取り組み始めたのが、「ごえん市」への出店である。円頓寺商店街を元気にしようとして毎月第一日曜日に「ごえん市」が開催され、フリーマーケットや模擬店などが出店されている。ごえん市の趣旨に賛同し、那古衆として出店を始めることになった。初回は、フリーマーケットだけだったが、二回目の出店では事前に那古衆オリジナルフードの開発・試食会を開



▲ごえん市出店風景、その1。お客さんとの会話を楽しみながらのフリマ。



▲ごえん市出店風景、その2。那古衆オリジナルフード販売中。

催し飲食販売にも挑戦した。三回目の出店ではメンバー店舗の商品の販売も始めている。お客さんの評判は上々であり、那古衆やメンバー店舗のピーアールも徐々にでき始めている。

緩やかに活動を続けるにつれ、メンバー内部で信頼関係が構築され、また情報も共有され、より前向きな議論や活動が行われつつある。今後、店舗のリニューアルやまちの自主ルールといった、より具体的な提案をしていくことになる。これまで同様小さな活動の積み重ねでまちを変え、都市をデザインしていくことになるが、きつと超高層ビル建設などのハード整備による都市のデザインとは異なるものがゆっくりと表われてくるはずである。

### 粋でいなせな集団

夢は大きく持つ、できることから自ら行動するのが那古衆。まちが好きな自分のために、自分が好きなまちのために汗をかき、実に粋でいなせな集団である。「いなせ（鱈背）」という言葉には、威勢がよくさっぱりとした気風という他に、イナが出世魚ボラの幼魚であるため将来有望な若者という意味もある。動き出したばかりではあるが、那古衆の成長とともに都市が緩やかにデザインされていくことを期待したい。